
凍蝶の眠り

葉月 恵里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

凍蝶の眠り

【Nコード】

N6127Z

【作者名】

葉月 恵里

【あらすじ】

私の家族。記憶。嘘。現実。世界。
分からないけど、知りたいって思う。莫迦だね。

「何を……何を言ってるのですか」

声が震える。

ただ今まで信じてきた真実が。

それだけが私のでのひらに残った真実が。

嘘だったんだよって、嗤う。

「知りたくないのか？自分の家族とその未来を奪った奴らを」

優しい家族がいた。

お父さんと、お母さんと、妹。

優しい家族だった。

『もう君の家族は帰ってこないんだよ』

同情されるのが嫌で。

何で私なのって。

何で私の家族なのって。

一人ぼっちになってしまった。

『事故だったんだ』

目の前の男に言われて、気付く。

もしも、この人の言っていることが本当だとしたら。
今まで作り上げられた私の世界は、何だというのか。

「可笑しいとは一度も思わなかったのか？」

疑わなかった。

一度も。

莫迦だね。

本当に、莫迦。

無表情に私を見る男が黙ったまま手を差し出す。

私が見つけるんだ。

私の世界の歪みは、私自身でしか直せない。

私は彼の手をとった。

冬の寒さで凍ってしまった蝶。

逃げたいと、もがいても寒さは強く。

その小さな抵抗でさえ、冷気は僅かなぬくもりを奪っていった。

眠りにつく前に、蝶は何を思う？

力で捻じ伏せられ、怯える蝶は莫迦だね。

でも、自分から吹雪の中に飛び込んでいく蝶はもっと莫迦かもね。

（後書き）

【廻る世界、時を越えて】テーマ「凍蝶」「陰謀」「使者」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6127z/>

凍蝶の眠り

2011年12月20日16時58分発行